

それいけ!ミスターあぐりマン!!



岡原直也さん



平野誠一さん

私たちが 農業を 始めました



岡原直也さん(32歳・野市町)は香川県生まれ。やはり父親の転勤により高知へ。22歳の時、整備士として県内の大手自動車メーカーに就職しました。その後、3年ほど前に退職し、求職活動中に、ハローワークでこの制度を知り、「やってみよう!」とすぐに思ったそうです。両親が、自宅と一緒に購入した畑で作物を作っている姿を身近に見て、自身も手伝いに駆り出される事も度々あり、就農に抵抗はなかったそうです。南国市の農家や、四万十町にある農業担い手育成センター「窪川アグリ体験塾」でトマト作りの研修を受けました。フルーツトマト作りをしよう

平野誠一さん(30歳・野市町)は愛知県生まれ。父親の転勤により幼少期に野市町へ転居し、高校を卒業後、働きながら、何度か観光で訪れた沖繩に魅了され、24歳の時にその沖繩に移り住みました。そしてお土産物販売などの仕事をしながら約1年間の「島んちゅ」生活。しかし、今後の自分の人生を考え帰郷し、「やりたい事探し」を開始。27歳の時に人づてに聞いたこの制度を知り一念発起して就農を決定したそうです。2年間地元のニラ農家で研修を積み、現在は畑を借りて23アールにハウス3棟、13アールに露地栽培でニラ作りに励まれています。

ニラをつくるぞ!

平成24年度から国の施策として、青年就農給付金など新規就農をサポートする制度が始まりました。市内でも24年度14人、25年度22人の若者がこの制度を利用し、新たに農業を始められています。全く農業に縁のなかった生活から研修を重ね、ニラとトマト作りに取り組み青年2人の奮闘ぶりをご紹介します。(制度概要は15ページに掲載) 担当/広報編集委員 久保きみ



と決意し夜須町の農家でも学び、現在は11アールの畑に2棟のハウスを建て、昨年8月に植えたトマトの第1作目の収穫に励む毎日です。

自慢の野菜を全国へ

始めたきっかけや、理由、条件などは違いますが、お話を伺った2人とも作物への愛情と、やる気は共通。水や肥料の量と時期など管理は大変で失敗した事も。農業のおもしろみを質問すると「手を抜けばその様に育ち、一生懸命手をかければ作物はちゃんと応えてくれていい物ができますね」と全く同じ答えが返ってきました。「初めてニラを出荷し、数日後お金が振り込まれた時には「よし! ヤッター!!」と、うれしかったですね」と平野さん。2人ともまだまだ目標の半分以下とのことですが「この仕事はずっと続けられる仕事」と日焼けした爽やかな笑顔が印象的でした。

家族や仲間の理解と協力のもと、新たな一歩を踏み出した青年たちの勇気と努力。香南の明るい太陽と豊かな水を浴び、彼らが手塩にかけた肉厚で濃い緑の丈夫なニラ、キュッと身が締まったツヤツヤのトマトは「高知野菜」として全国に出荷されています。今後も「担い手」が増える事を期待しますね。

急募!!

あなたの「香南のお気に入り」が誌面を飾ります!

香南好百景

来月の7月号で香南市広報誌が100号を迎えます。それを記念して香南市好百景を掲載しようという計画しています。皆さんのお気に入りの場所、建物、景色などの写真をお送りください。

プリントを郵送、またはデータをメールで送ってください。皆さんの香南市愛の詰まったスポットをお待ちしています!

応募先: 香南市総務課 秘書広報係

(住所: メールアドレスは左記)

■応募×切 6月10日(火)必着

■お送りいただいた作品はお返しできません

■おひとり何点でも応募可

(応募者多数の場合や、広報誌に適すものかを、広報編集委員会でご選考させていただきます)



《広報へのメール》

kounou@city.kochi.konan.lg.jp

《香南市のホームページ》

http://www.city.kochi.konan.lg.jp